

氏名 広 畑 衛

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 692 号

学位授与の日付 昭和50年9月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者  
(学位規則第5条第2項該当)学位論文題目 胆汁色素に関する研究  
第1編 諸種肝疾患時の胆汁中 bilirubin - phosphate 分画  
の臨床的意義  
第2編 胆汁中にみとめられる diazo 陽性非 bilirubin 分画  
の分光化学的性状と臨床的意義について

論文審査委員 教授 大 藤 真 教授 水 原 舜 爾 教授 平 木 潔

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

bilirubin の肝より胆汁への排泄は主として glucuron 酸抱合によるが、肝疾患にさいし glucuron 酸抱合機序が障害された場合、代償的に他の経路が亢進することが知られている。この点について第一編では、胆汁中の磷酸 ester 反応陽性 (bilirubin - phosphate) 分画の肝疾患時における臨床的意義を検討し、肝硬変症、急性肝炎では健常者に比し有意の増加が認められ、肝機能検査成績とは ZnTT, TTT,  $\gamma$ -globulin 量, BSP とは正の相関を, ICG とは負の相関を認めた。

第二編では、光の bilirubin 代謝におよぼす影響およびその代謝産物について検討した。この成分は、直接 diazo 反応陽性で、水溶性の非 bilirubin 成分で、pentdyopent 反応陽性の dipyrrol 物質と考えられた。その azo 色素は既知の bilirubin の azo 色素とは分光化学的性状が異なっていた。肝疾患において胆汁中の分画成分は、慢性肝炎、肝硬変症、体質性黄疸において健常者に比し有意の増加を示し、その成分の増加は ZnTT, TTT,  $\gamma$ -globulin 量との間に有意の相関を認めた。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、胆汁色素について二つの分画の面から研究したものであるが、従来十分確立されていなかったこれらの分画の臨床的意義について重要な知見をあげ得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があるものと認める。